

経済・金融フラッシュ

No.07-075 2007/09/26

貿易統計 07年8月～貿易収支は2カ月ぶりに改善

ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎

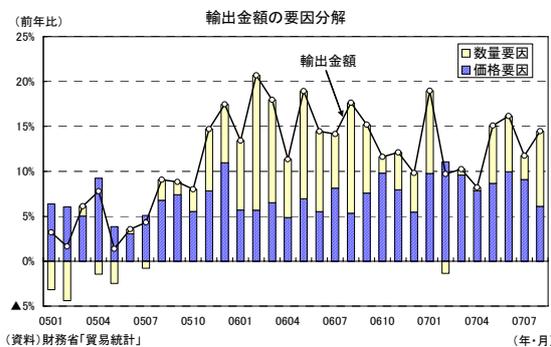
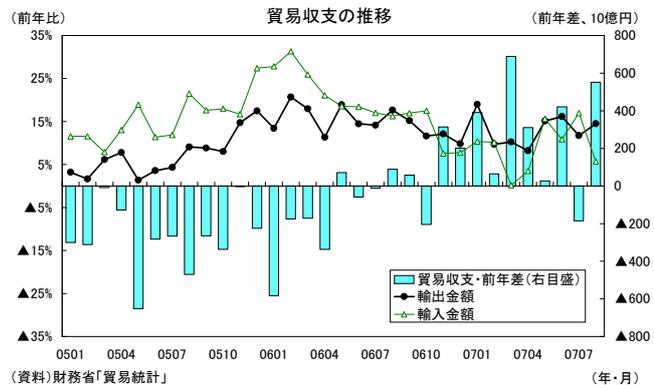
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易収支は2カ月ぶりに改善

財務省が9月26日に公表した貿易統計によると、8月の貿易黒字は7,432億円（前年比287.6%）となり、事前の市場予想（ロイター集計：2,428億円、当社予想は1,678億円）を大きく上回った。貿易収支は2カ月ぶりに前年よりも改善した。

輸出価格は、円高進展の影響もあって前年比5.9%と7月の同9.0%から伸びが低下したが、米国向け輸出の落ち込み幅縮小などから、輸出数量が前年比8.2%と7月の同2.5%から伸びが大きく高まったため、輸出金額は前年比14.5%と7月の同11.8%から伸びが拡大した。

一方、輸入価格は前年比12.0%（7月：同17.0%）と引き続き二桁の伸びを維持したが、輸入数量が前年比▲5.6%とマイナス幅が拡大した（7月：同▲0.1%）ため、輸入金額は前年比5.7%と3カ月ぶりに一桁の伸びにとどまった。

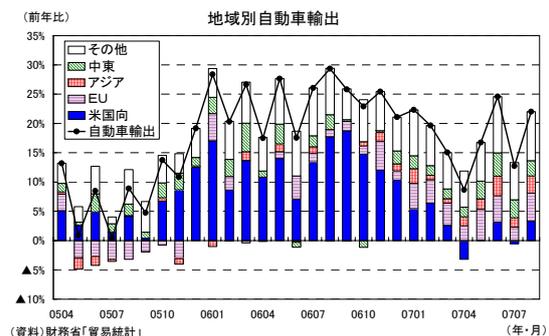
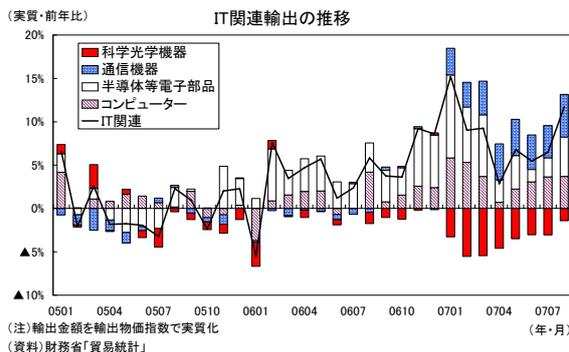


2. 自動車輸出の伸びが再拡大

輸出の内訳を見ると、IT 関連品目では、科学光学機器は前年比▲7.6%と引き続き減少となったが、コンピューター（同 8.4%）、半導体電子部品（同 6.7%）、通信機（同 135.6%）等が増加し、全体では堅調な動きとなった。国内の電子部品・デバイスの在庫は依然として高水準にあるものの、出荷・在庫バランスは改善に向かっていている。IT 関連輸出の増加は在庫調整の進展を後押しする要因となろう。

自動車輸出は前年比 22.0%と 7 月の同 12.8%から伸び率が大きく高まった。7 月に前年比▲1.3%の減少となっていた米国向けが同 8.1%と増加に転じたほか、EU 向け（7 月：前年比 15.7%→8 月：同 36.0%）、アジア向け（7 月：同 21.3%→8 月：同 42.8%）も伸び率が大幅に拡大した。

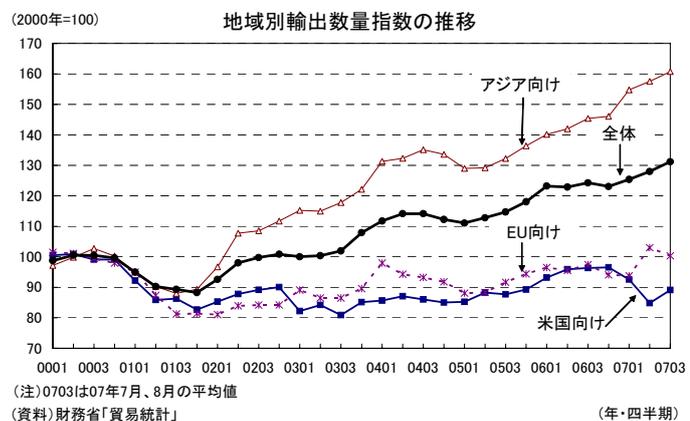
7 月の自動車輸出は、新潟県中越地震に伴う国内減産の影響で伸びが大きく鈍化したが、8 月には伸びが再拡大した。8 月の貿易統計で、地震の影響が短期間で終息したことが確認されたことから、7 月に大幅な減産となった国内の自動車生産も、8 月には大幅な増産となったことがほぼ確実と言えよう。



3. 米国向け輸出が持ち直し

輸出数量を地域別に見ると、アジア向けは前年比 13.0%（7 月：同 10.6%）、EU 向けが前年比 4.6%（7 月：同 2.6%）と伸びが高まったことに加え、大幅な落ち込みが続く米国向けも前年比▲5.2%（7 月：同▲10.4%）と持ち直した。

輸出数量指数の 7、8 月の平均（当研究所による季節調整値）を 4-6 月





期と比べると、米国向けが 5.0%、EU 向けが▲2.6%、アジア向けが 2.1%、全体では 2.5% となった。

4-6 月期の外需は輸出の減速から、前期比 0.0% (寄与度) とほぼ横ばいとどまったが、アジア向けの好調、米国向けの持ち直しにより、輸出の増加基調が維持されていることに加え、輸入の伸び悩みが続いていることから、7-9 月期の外需は成長率を押し上げる方向に働く可能性が高まってきた。

ただし、米国経済は、住宅投資の悪化、個人消費の伸び悩みなどから、減速傾向が続く可能性が高く、米国向け輸出の急回復は見込みにくい状況にある。今後、輸出が再加速し、景気の牽引役となることはあまり期待できないだろう。